

報告タイトル

「中国ファン文化におけるナショナリズム -SNSでの攻防-」
“Nationalism in Chinese Fandom Culture: Battles on Social Media”

氏名(所属)

袁 晨旭(東京外国語大学大学院博士後期課程)
Yuan Chenxu (Ph.D. Candidate, Tokyo University of Foreign Studies)

要旨(800字程度)

本研究では、中国の SNS から関連する発言を収集し、中国のファン文化におけるナショナリズムの表現を詳細に分析し、その形態と特徴を検証しながら、この現象が発展する経緯、さらに与える影響と世界的な位置づけを明らかにする。

「中国のアイドル元年」とも呼ばれる 2018 年以降、中国のインターネット上ではファン文化の影響力が増し、もはや特定の小規模な支援活動にとどまらず、「微博」を代表とする SNS コミュニティ全体に大きな影響を及ぼす話題となっている。

現代の中国のファン文化におけるナショナリズムは、二つの特徴を持っている。まず、「対立」がある。ファンは自分のアイドルの愛国的な行動を強調する一方で、競合するアイドルを「非愛国的」と攻撃することがある。また、「出征」という形態もよく見られる。ファンたちは愛国的な行動を通じて、政府系メディアや一般の人たちに、自分たちのアイドルを認めてもらうことを狙う。

これらの愛国的行為には、正当化、顕在化、極端化といった特徴が見られる。愛国主義は絶対的な正義として正当化され、愛国的でなければ非難されるという顕在化が起こり、極端な形に至ることもある。

そして近年、オンライン上での発言の先鋭化は、国際的に類似した傾向が見られる。中国のファンダムのナショナリズムも、世界の潮流の一環と見なされる要素があるが、同時に独自の特徴も存在している：若者が主役、ファンダムの介在、そして管理体制の欠落。

上記の観点から、ファン文化におけるナショナリズムがもたらす文化的な自信と、ナショナリズムを悪用する負の側面の間でバランスをとることは、中国が直面する社会的な問題になる。